

神奈川県環境学習リーダー会

会 報

No. 31

2003年
2月3日

役員会報告 (事務局長 児玉 勇)

2月役員会 2月19日(水)

3月役員会 3月19日(水)

(2回の役員会をまとめて報告します)

1. 市民環境活動報告会 (2月23日開催)
当日の担当分担の決定(2月) 総括(3月)
別掲報告参照
2. 意見交換会 (3月6日開催)
当日の進行について確認(2月) 総括(3月)
別掲報告参照
3. 総会 (4月26日開催) 準備
新役員候補の選任・総会案内の作成・「今年度

カット：キブシ

北海道南部から四国・九州まで広く分布する落葉低木。今が花の盛りです。
梅・桃が人家に近く早春を告げる樹木なら、キブシは山地で春を知らせてくれます。
青い空に黄色いかんざしのような花房を下げて咲き、秋には黒い実をびっしりつけます。その実は昔お歯黒に使われたこともあるそうです。

の事業報告」の確認(別掲)・総会までのスケジュールの打合せ

4. 来年度「環境学習アドバイザー」
引続き現体制で対応する(事情により1名交代)

第3回意見交換会 多数の意見が活発に出る

3月6日横浜駅西口の県民活動サポートセンターにおいて、第3回意見交換会が開催された。2月23日に市民活動報告会が行なわれたばかりでもあり、どのくらいの会員が集まってくれるのかの心配をよそに25名もの出席者があった。清水代表から「本日は地域活動の展開と会費改定を中心に意見交換を行なっていただくことになっているが、K・リーダー会発展のために活発な議論をしていただきたい」とあいさつがあった。

司会から「各自の地域での活動やこれからの活動について話してほしい」と出席者の自己紹介に移った。活動の内容は多岐に渡り、リーダーが地元や地域で実践活動していることが紹介された。

地域活動の展開について

新規プロジェクト担当の木本氏より環境教育・学習部会を新設し、地域のいろいろなグループで情報交換を行い、活動に役立てることについて提案があった。そのためには、環境全般から地域に密着した活動を選び、地域を活動拠点とすることや、5部会のうち、自然環境部会・廃棄物リサイクル部会は環境教育・学習部会に含まれることなどが組織図などを使用して説明された。

これに対し、「2つの部会担当者はどのように考えているか？」との質問があり、石丸廃棄物リサイクル部会長は「1年をかけエコライフの診断書をつくり、これから実践して行く。その他にも食の安全

などさまざまな問題を地域でバックアップできるようにしたい。専門部会に残し、専門的な立場から指導するようにしてはどうか」と答え、柳川自然環境部会長は「どのような活動をしたらよいか、会員に呼び掛けたが反応がない。学習部会に含まれることに依存はない」と答えた。

出席者から「リーダー会は地域の各グループを取りまとめるコーディネイトの役割がよいと思う。リーダー会に問い合わせると地域の情報がよくわかり、活動に参加することもできるようにしておくこと」との意見もあった。

木本氏は「まず現状を把握し、ネットワークへの参加を呼び掛ける。これから立ち上げようとするグループにも情報を提供し協力していくためにこのような案を出した」。

環境学習部会の今後の取り組みについては、交換会の意見を踏まえた上で役員会に一任することになった。

会費改訂について

山田会計担当から「年々活動が活発になり、繰越金を取り崩している状況である。今年度の会計が辛うじて黒字になるのは、環境アドバイザーからの謝金が大きく、このアドバイザー制度も15年度は確定しているが、今後の見通しを考えると会費の値上げは避けられない」と説明があった。他の役員から

(5頁へ続く)

神奈川県環境学習リーダー会

平成 15 年度「総会」開催のご案内

代表 清水 幸夫

桃の花の咲く候、皆様ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成 14 年度、みなさまそれぞれが各分野で環境学習に環境保全活動にご活躍をともにたたえましょう。さて平成 15 年度の K・リーダー会の総会を下記の通りご案内申し上げますので、ご多忙とは存じますがご出席をお願い申し上げます。

記

「総会」

- ・ 日時 平成 15 年 4 月 26 日（土）午後一時から午後三時（予定）
- ・ 場所 神奈川県環境科学センター 2 階

* 議題 *

1. 平成 14 年度 事業報告・会計決算報告・監査報告
2. 平成 15 年度 役員選任
3. 平成 15 年度 事業計画・収支予算計画・規約改定
15 年度は「会費の改定」を提案いたします。（「重要課題」の項をご参照願います）

* 尚、「総会」終了後に懇親会を予定しておりますのでご出席をお願いいたします。

「出欠の連絡と委任状」

「総会」の出欠を別添えハガキで 4 月 8 日（火）までにご連絡をお願いいたします。

「重要課題」 会員の会費の改定（案）

第 8 条（会費）会員は次に定める会費を納入する。

(1) 正会員 年額 (現行) 2,000 円 (改定案) 3,000 円

* 改定の理由

K・リーダー会の事業が活発化し、部会それぞれの事業が充実したため、平成 13 年度において翌期への繰越金減が発生しました。平成 14 年度は収入面で環境学習アドバイザー・相模湖町環境展・藤沢養護学校等の収入によってしのげましたが、今後の展望が厳しいこと、又、今年度の意見交換会でも意見として出されました役員の活動補助（交通費一部負担）を計上することとして改定案を提出いたします。

「平成 14 年度の事業報告について」

次頁に平成 14 年度の事業報告掲載しております。

また、平成 15 年度の事業方針、予算案等の詳細は総会の席上において提案いたします。

以上

神奈川県環境学習リーダー会 平成14年度 事業報告

1. 役員の活動

定例役員会 毎月 1回 特別役員会 1回(4月9日)
「会報」(「連絡会ニュース」改め)発行 隔月発行(6回)ホームページの充実
環境科学センター訪問(6月5日(水)情報・意見交換)
第1回「親子で楽しむ環境展」(6月9日(日)かながわ県民センター)
会員研修・交流会開催
第3回 会員意見交換会 3月6日 参加者 25名 かながわ県民センター
意向調査(「地域担当の募集」と「環境学習の講師・企画員の登録」)
会報30号に中間報告 回答者 65名
NPO法人 環境学習研究会(ecok 東京)往訪 活動状況の把握
会報30号に掲載
「市民環境活動報告会」の開催 2月23日(日) かながわ県民センター
(環境科学センター共催)参加者 140名 ・終了後、交流会の開催

2. 環境科学センター事業への協力活動

子ども環境体験教室の開催 (6月-9月 7教室 8回)
酒匂川水生動物の調査(酒匂川水系探水隊)
環境実践者支援講座 講師派遣

3. 行政・活動団体等との連携・支援活動

神奈川県「環境学習アドバイザー」 6名派遣
かながわ県民センター(毎金曜日) 環境科学センター(毎日曜日)
藤沢養護学校「環境問題を通じて交流会」(9月-11月 4回)
相模湖町「親子で考える環境展」企画・運営に参加 (1月26日)
愛川町体験教室への協力(今年度 ケナフ)2月22日
綾瀬市 子ども環境教室(テーマ 水)講師派遣 7月27日(土)
秦野市エコリーダー養成講座 講師派遣
神奈川県地球温暖化防止活動推進員 各地区まとめ役
地域生涯学習の企画・実施(金沢区・港北区・磯子区・泉区・戸塚区 等)
「あつぎ河川ふれあいまつり」への協力
小・中学校の「環境学習」に対する支援
地域環境保全活動グループへの参加

4. 部会の活動(内容 別掲)

ケナフ部会 環境モニタリング部会 廃棄物・リサイクル部会
エネルギー部会 自然環境部会

5. その他の活動

10期生(環境実践者養成講座修了者)への入会説明 21名入会

以上

第9回市民環境活動報告会 開催される

去る2月23日、第9回市民環境活動報告会が、神奈川県環境科学センターと当リーダー会の共催により、かながわ県民センター2階ホールにて行われました。

開会に当たり、神奈川県環境科学センター所長片桐佳典氏より「環境活動においては『市民との協働が大切』」とのお話を戴き、また基調講演として、今回はFoE (Friends of the Earth) ジャパンの成田正之氏をお招きし「砂漠緑化活動を始めて」と題してお話し戴きました。

以下に基調講演と9件の報告案件を紹介いたします。

(以下、敬称略)

基調講演及び9件の報告発表

「市民が立ち上がった落書き撲滅運動」

平塚をみがく会 原園 信夫

平塚市に1つでも落書きをそのままに置いていたら平塚の町全体が落書きで埋められてしまうという危機感から、「窓割理論」に賛同し、「たった1つの落書きでも、書かれたらすぐ消そう」と始めた活動の報告。

「自動販売機の実態 - 消費電力および設置状況」

神奈川県地球温暖化防止活動推進員 横山 進

いつでも・どこでも手軽に利用できる自動販売機の中でも、飲料用については、普及台数の多さと、その消費電力が24時間使用と相俟って非常に大きなものであることから、省エネルギーへの取り組みの一環として実態調査を行った内容の報告。

「市街地に隣接した里山の保護活動」

和泉の森を育む会 中村 孝夫

子育てネットワーク“ドレミファ” 佐藤 政枝

貴重な緑地帯であり後世に引き継ぐべき共有の財産である森がゴミの山、立ち入ることさえ危険な状況に、地域の町内会に働きかけてボランティア活動「和泉の森を育む会」を結成し、森の保護・再生と地域の連帯感を深めるために始めた活動の報告。

「竹炭・竹酢液づくりとその応用」

ね!炭倶楽部 山崎 美由紀

炭やきの魅力である自然の中で汗を流し作業する楽しさ、できた炭で料理を楽しみ、炭の特性を生かした安全で健康的な生活。炭材には、竹や間伐材を利用することで、竹林や雑木林の環境整備・自然保護・再生・循環に役立つとの考えから発足させた会の活動の報告。

「横浜市のパートナー事業に参画して」

かながわ環境カウンセラー協議会 平賀 眞彦

地方自治体の公園事業推進の一環として公園整備事業のパートナーに応募、「研修グループ」で研鑽を積んだ後、公園素案の作成・運営準備委員会に発展し、今年から運営管理を実践することになっているが、ボランティア活動であるが故の、いくつかの課題を残している。活動の経緯と内容を報告。

基調講演 「砂漠緑化活動を始めて」

FoE Japan (地球の友) 砂漠緑化プロジェクト

成田 正之

成田講師は、企業を定年退職後、62歳から環境NGO FoE Japanのメンバーとして中国砂漠緑化プロジェクトに取り組み、活躍されている。

この講演では、前半でFoE Japanの活動の紹介を通し、また、自身の経験を踏まえて、これからボランティア活動をしようと考えている人や何かやろうと思っている人に非常に参考になるNGO活動の話があった。

後半は、氏の主な活動の中心である中国内モンゴル・ホルチン沙漠は、以前は草原地帯だったが、乱開墾、過放牧等により砂漠化が急激に進み、緑化活動は単に沙漠に木を植え、緑を増やそうというのではなく、住民に経済的メリットもある活動を、現地住民と共同で行ったという活動の紹介と、地球環境の現状についてお話し戴いた。



基調講演をする成田氏

「自然への気づき - ネイチャーゲームで自然とのかよしに」

日本ネイチャーゲーム協会中級指導員 北村允彦

ネイチャーゲームは、四季折々、森や林、公園や海辺で、五感を通して直接自然体験をし、自然との一体感を感じるという「自然への気づき」(ネイチャーアウェアネス)を高め、真の理解を経て行動につなげる環境教育で、その楽しさと意義について発表。

「環境学習出前講座 - 未来へつなく環境学習～リサイクル神話をぶつつぶせ～わりばしからマイ・はしへ」

ふるさと環境市民の会

西 寿子、進士 幸子、藤村 妙子、根岸 堯子

同会は、ドイツ・スウェーデンへの環境視察ツアーで、環境先進国での取り組みを見たことを通して、環境学習の重要性を痛感、環境学習出前講座に力を入れているが、当日は、スウェーデンの環境学習の取り組みの紹介と、学校や市民を対象とした「出前講座」の活動状況を報告。

「親と子の楽しい省エネ教室実践報告」

神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会

下條 泰生、北村 博子

環境学習リーダー会の部会から一般市民の会員と共に活動するために、神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会を結成、一般の親と子を対象に、家庭での省エネの動機付けと楽しく身につく省エネ方法の啓発、参加型・体験型の啓発の場を提供してきたが、その実践内容を紹介。

「子供環境教室 - 地球っ子ひろば」

地球っ子ひろば事務局

斉藤 美代子、佐藤 洋徳、土屋 智絵、山口 洋子

「環境学習リーダー養成講座」を受講し、「学んだことを活かし、伝えたい。手探りでも何かを始めたい。子供を対象にした環境学習の機会を作りたい。」という思いから、学校五日制の開始を機に小学生を対象に環境・自然の大切さを感じてもらおう活動を開始。活動までの経緯と内容を報告。

第9回市民環境活動報告会を終えて

第9回市民環境活動報告会実行委員長 石丸 博司

第9回という歴史のある報告会にふさわしく、各

(1頁からの続き) 第3回意見交換会

「役員の交通費も予算に計上されていない。夏の子ども環境体験教室に関わった会員の交通費はおよそ15万円。ボランティアといえ、交通費くらい出せるようにしたい」と補足があった。

出席者から「10年前と同じ会費。値上げもやむをえない」「値上げした場合の試算で会員の減少率が低すぎるのではないか。現在の未納率を考えるともっと厳しいだろう」「決算の中で大きな割合を占めているのは郵送費である。メールにしたら安くすむ」「メール使用者は会員の半数に満たない」「いまの会報をいろんな人に見せている。会報だけでも会費3千円の価値がある」など活発な意見が交わされた。

講演者の中身の充実した発表と参加者の熱心な質問を頂き、立派な報告会が出来ましたこと、関係各位の努力とご支援のたまものです。

神奈川県環境科学センター片桐センター長、本田 部長、特に野崎様にはお膳立てから開催にいたるさまざまな準備や心遣いをいただき心から御礼を申し上げます。

参加者も昨年より多く140名の多数のご参加を戴きました。基調講演と神奈川県地球温暖化防止推進委員、かながわ環境カウンセラー協議会、当環境学習リーダー会(7件)の皆さんが取り組んでこられた第一線での環境保全活動の事例、10課題の報告を頂きました。

私は事前に講演要旨集に目を通して聞かせてもらいました。内容的に個々の貴重な経験や出来事など、もっと触れてほしかった所が随所にありました。持ち時間が質疑も入れて25分間、という制約もあったと思いますが講演要旨集に今一度目を通して下さい。

また演台での発表は女性の方の報告者が多く、第一線での活動内容とも相俟って女性の活躍している様子が感じられ、また頼もしく感じられました。

会場での質疑や提案も活発で、第一線での活動の熱意や大切な手がかりやヒントが得られたような手応えが感じられました。

また終了後の交流会も予定人員を大幅に上回る熱心な会合となりました。

大変有難う御座いました。

尚、講演要旨集は環境科学センターに何冊か残部数があるそうです、早めにご連絡下さい。

(広報部 黒澤 宏)



会費改定については次期総会で会員に議案として提出されることになった。

規約改定について

規約14条については、役員会で検討し総会に提案することになった。

その他

「講座の修了時に入会の誘いがあったが、部会に入らないとリーダー会に入会しづらい雰囲気があった。入会説明の内容を再考してほしい」との意見があり、入会説明時の対応に課題が提供された。

最後に、1月に相模湖町で開催された「親子で考える環境展」のパネル展示をみて解散となった。

(広報部 森 千春)

第2回 “親子で楽しむ環境展”

実行委員長 北村 博子

K・リーダー会主催第2回環境展は、第1回実行委員会を経て、各出展グループより下記のように出展概要が出されました。

第2回は、「地球っ子広場」「平塚を磨く会」「ね！炭倶楽部」等、地域に根を下ろして活動を続けている頼もしいグループも参加します。又、「ロウソク作り」「落書き消し体験」「節電コンセント作り」等の体験、「竹炭・飾り炭」「エコカルタ」等の有償頒布の計画もあります。

第1回「親子で楽しむ環境展」、相模湖町「親子で考える環境展」での展示・参加体験を活かし、実り多い環境展にして、来年度環境展への礎にしたいと考えています。

会員及びグループメンバーや関係する方々をお誘い合わせ頂き、昨年以上の成果を収めたいと願っております。多くの皆様のご参加をお願いいたします。

尚、各出展グループの展示・体験項目等の概要を下記に一覧表にしました。

記

1. 日時：平成15年6月8日(日) 10:00～16:00
2. 場所：かながわ県民センター (横浜駅西口) 1階展示場

| 参加グループ | 展示テーマ | キャッチフレーズ | 展示項目 | 体験項目 | 頒布品(有償) |
|-----------------------------|------------------|----------------------|--------------------------|----------------------|---------|
| 地球っ子広場 | 資源の再利用 | 作ってみよう リサイクル工作 | リサイクル工作品 | 剣玉作りなど | ---- |
| 自然環境部会 | 自然を知ろう | 大自然の中へ | パネル・標本・地図 | ---- | ---- |
| ケナフ部会 | ケナフを育てて、 楽しもう | 今、なぜケナフ | 各種大きさの 紙製品 ケナフ製品 | ケナフ葉書 ケナフ染め | ケナフ種子 |
| エネルギー部会 エネルギー会省エネ共 和国 | 地球温暖化防止 | 「シンプルライフ」で 楽しく省エネ | エコカルタ・パネル ・燃料電池ミニカー | 節電コンセント製作 エコカルタ取り | エコカルタ |
| 廃棄物 ・リサイクル部会 | シンプルライフの 推進 | | | | |
| 環境 モニタリング部会 | 誰でも参加できる 環境調査 | みんなで作ろう 神奈川の環境マップ | 環境マップ集 生物環境指標説明 資料 | ---- | ---- |
| GO3の会 | 環境パズルで遊ぼう | 君は地球を守れるか | 平成15年度 ゴミ分析結果 | 環境パズル 罰ゲーム | ---- |
| 平塚を磨く会 | まち美化活動 | 落書きを消す | 落書き消し | 落書き消し体験 | ---- |
| ね！炭倶楽部 | 炭を楽しむ | 炭を使って快適生活 | 見せる炭 ・竹炭・飾り炭 | ---- | 竹炭・飾り炭 |
| リーダー会 | | | | | |

環境学習アドバイザー 新年度も同体制で

事務局長 児玉 勇

今年度から神奈川県「環境学習アドバイザー」6名を派遣してきましたが、県より、次年度も同じ体制で続けてほしいとの要請があり、引き続き受けることにいたしました。ただし、羽生田さんが都合によりで辞退されますので、代わりに石丸副代表を

派遣することを役員会で決定しました。

かながわ県民センター11階(毎金曜日)環境科学センター(毎日曜日)で県民の相談を受けていますので、ぜひお立寄りください。

= 豆知識のページ =

地球温暖化防止「地域からの取り組み」交流会 全国規模で開催される

去る1月27日、東京ウイメンズプラザホール(東京都渋谷区)において地球温暖化防止「地域からの取り組み」交流会(環境省、全国地球温暖化防止活動センター主催)が開催されました。全国規模での交流会が開催されたのは今回が初めてですが、この交流会を取材しましたのでお知らせします。

この交流会の様をお伝えする前に、地球温暖化対策推進法(1998年制定、2002年改正)について詳しい方も多いかと思いますが、おさらいの意味でその概要を説明します。

I. 地球温暖化対策推進法(以下、法律という)の概要

[法律の目的]

この法律の目的は、地球温暖化対策の国、地方公共団体、事業者および国民の責務を明らかにすること、京都議定書の的確な実施によって地球温暖化防止の推進を図ることの2点である。

[各々の責務]

1. 国
 - 1) 環境監視、排出抑制、吸収作用の保全強化など総合施策の推進
 - 2) 自ら排出する温室効果ガス排出抑制
 - 3) 国際協力など
2. 地方公共団体
 - 1) 自ら排出する温室効果ガス排出抑制
 - 2) 地域住民、事業者の活動など
3. 事業者
 - 1) 自ら排出する温室効果ガス排出抑制
 - 2) 製品改良、国際協力、他の者への取り組みへの寄与
 - 3) 国、自治体への協力
4. 国民
 - 1) 日常生活に関する排出抑制
 - 2) 国、自治体への協力

[京都議定書の概要]

1. 先進国の温室効果ガスの排出量について各国が数値目標を設置する。
 - 1) 対象ガス：二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロンなどの3ガスの計6種類
 - 2) 吸収源：森林などによる二酸化炭素の吸収量を導入

3) 基準年：1990年(一部は1995年でもよい)

4) 目標期間：2008～2012年の5年間

5) 数値目標：日本6%、米国7%、EU8%など先進国全体で5%削減を目指す。

2. 京都メカニズム(国際的に協力して目標達成する仕組み)

- 1) 排出量取引：先進国間で排出枠をやり取り
- 2) 共同実施：先進国間の共同プロジェクトで生じた削減量を当事国でやり取り
- 3) クリーン開発メカニズム：先進国と途上国間の共同プロジェクトで生じた削減量を先進国が獲得

3. 議定書発効の要件

次の両方の条件を満たした後、90日後に発効。

- 1) 55ヶ国以上の国が締結
- 2) 締結した附属書I国(注1)の合計の二酸化炭素の1990年の排出量が全附属書I国の合計の排出量の55%以上

(注1) 附属書I国：

米国、EU、ロシア、日本、オーストラリア、カナダ、ポーランド、NZ、その他(東欧、中東諸国など)

(注2) 2003年1月現在で、101ヶ国とEUが締結済み。締結した先進国の排出量の合計は43.9%で、今年中に参加が期待されるロシアが加われば55%を超える。

[防止活動推進の組織]

全国地球温暖化防止活動推進センター、都道府県の地球温暖化防止活動推進員・地球温暖化防止活動推進センター、地球温暖化対策協議会を設置。

次に、地球温暖化防止「地域からの取り組み」交流会の講演と活動事例報告についてお知らせします。

II. 地球温暖化防止「地域からの取り組み」交流会

京都議定書発効を前に、都道府県地球温暖化防止活動推進センターや地球温暖化防止活動推進員の活動がますます重要になってきました。そして、昨年の地球温暖化対策推進法の改正により、地域協議会が設置されることになり、各部門の中でも民生部門

の対策が、なお一層重要となってきました。

この交流会をとおして、これらの役割や対策について考えることが交流会開催の趣旨です。

1. 講演「地球温暖化の最近の状況について」

環境省地球温暖化対策課長 清水氏

次のテーマについて講演があった。

1) 地球温暖化問題

気候の変化、すでにぜい弱な生態系に影響、対策技術で大きな進展

2) 温暖化防止のための国際交渉

気候変動枠組み条約、京都議定書など

3) 京都議定書の要点と発効要件

4) 2000年度の温室効果ガス総排出量(日本)

・2000年度の総排出量 13億トン

・京都議定書の基準年(1990年)の総排出量と比べ8%増加、従って、この時点で14%の削減が必要

5) 地球温暖化対策推進大綱

この大綱の概要について説明があったが、その中で注目されたのは6%削減の区分ごとの目標値で、その主なものは次のとおりである。

- ・革新的な技術開発、地球温暖化防止活動の推進 2.0%
 - ・森林による吸収 3.9%
- など。

2. 活動事例報告

温暖化防止活動の地域からの取り組みについて、各地域の代表から次のような事例報告があった。

1) 秋田県地球温暖化防止活動推進員 辻氏

地域の人、特に子どもたちにポスターをとおして温暖化情報を伝える活動

2) 滋賀県推進員 竹内氏

バイクロジをすすめる会をとおして、マイカーをやめて自転車に乗る活動

3) 札幌・旭川地域協議会 谷村氏

IT技術利用のエコドライブ診断モデル事業の推進

4) そでがうら地域協議会 国広氏

各世帯の温室効果ガスの排出量やライフスタイルの訪問調査をおこない、診断・助言する「地球温暖化対策診断モデル事業」への取り組み

5) 長野県地球温暖化防止活動推進センター

宮坂氏

マイカー通勤節減運動の実行計画

など。

3. パネルディスカッション

テーマ: 「地域からの取り組み」

<コーディネーター> 全国地球温暖化防止活動推進センター長 須田氏

<パネリスト> そでがうら地域協議会 国広氏

長野県地球温暖化防止活動推進センター 宮坂氏ら

<オブザーバー> 環境省地球温暖化対策課長 清水氏

次のプレゼンションテーマについてパネリストからコメントがあった。

1) 地域協議会のあり方についての行政に対する要望

- ・県の財政的支援がほしい。
- ・実行計画の策定は行政だけではなく市民が係わることが大切。
- ・行政との話し合いは自治会をとおすことが望ましい。
- ・パートナーシップの取り入れが温暖化防止対策制度の特徴であり、地域協議会が今後大きな役割を果たす(環境省)。

2) 地域協議会はどのようにしたらできるか

- ・行政のトップの考え方によって温度差がある。熱心に動く人がいるかどうかのポイント。
- ・地域の媒体の活用によって広報活動ができないか。
- ・経済的なインセンティブがないと裾野が広がらない。
- ・学校関係(PTA)を利用してリンクできないか。

3) 2004年のCO₂削減の見直しの実現についてどう考えるか

- ・市民と本音の話し合いが必要。行政への不平、不満を引き出し行政へのパイプ役を演じて提言する。
- ・活動がうまくいかないのは切実感がないから。体で分かるものを示し、しつこくやる。子ども教育に力をいれる、自然観察などの指導員の養成が必要。
- ・子どもには教育ではなく、興味を持たせて遊び感覚で。
- ・マスメディアの力が大きいがかねががかる。

4. 清水課長のコメント

- ・CO₂削減のメリットがどの程度伝わっているか。
- ・関心をもつ 学ぶ 行動する 組織化のプロセスをたどって結果がでる。
- ・京都議定書の目標達成まであと10年。国民のライフスタイルを変える大きなシステム

➤ ムができた。いかに実行するかがポイントである。

[交流会に参加しての感想]

全国規模の交流会ということで、報告内容は、それぞれの地域に根ざした特色のある活動でしたが、成果というより活動の皆さんのご苦労がよく伝わってきました。

共通した悩みは、それぞれの地域の主体である県民の皆さんにどう切実感・関心を持ってそれを行動に結び付けてもらうか、ということで環境教育・環境学習の充実はもちろんですが、情報発信元としてのテレビ・新聞をはじめとしたマスメディアに大きな期待が寄せられてい



ました。しかし、国民が切実感を持てば持つほど、現在巷で目に付く飲料用自販機、24時間開店のコンビニの照明・温調機、派手な電飾等といったエネルギーの無駄遣いに目が向けられるのも事実で、会場からの意見に大きな賛同の拍手が上がっていました。

これらを含め、行政・事業者・市民が一体となって温暖化防止に取り組んでいくに当たり、行政（環境省）の他の省庁を巻き込んだ、腰の据わった指導力が今後の活動の成否に大きく関わっていくと強く感じました。それを期待しつつ、K・リーダー会としても市民と向き合い、温暖化防止を強力に推進していかなければならないと感じました。

（広報部 黒澤 宏、木本光昶）

会員の広場

酒匂川及び支流探水隊、明日に向かって

1期 齋藤 昭一

酒匂川及び支流探水隊も2年目が終了した。1年目はおもに本流を主体に水生生物の実態調査をした、今年度は支流に重点をおいて調査を進めた。どんな水生生物が生息しているか？という視点ではなく、この川の水生生物の存在を自分の眼で確認することによって「何処まで汚れているのか？あるいはきれいなのか」と判断することなのである。

この2年間の調査で解ったことは5年前には生息していなかった生物が発見されたことである。「シマイシヒル」「ヨコエビ」である。前から生息していたが、その数が多く感じられるようになった「みずむし」「変形奇魚」達である。これらの水生生物が発見されたことでただちに「この川の水が汚れている」との判断を下すわけではないが「汚れが」間違い無く進行しつつある、あるいは始まったか？との認識は必要であると思う。

嬉しい報告も有る。5年前にはまったく姿を消したと見られていた生物達が発見されたことである。「イモリ」「サワガニ」「メダカ」達である。これらは水環境に非常に敏感な生物である。特にメダカについては小田原市の地元の「メダカを守る会」の人達の大変な努力・尽力によるものと思う次第である。

現在のところ新種と見られるモノは発見されていないが、今後、源流にむかって調査が進むにつれて吉報が聞かれるかもしれない。

15年度は本格的に支流への挑戦が始まります。これからの闘いは今までの「何が棲んでいるか？」ではなく、最初に示した「シマイシヒル」「ヨコエビ」「ミズムシ」の3種類に限定して行動する。「居たか」「居ない」この一点に絞ってまいります。一人の調査責任範囲を500メートル前後に定め、水深もひざ下50センチに限って探索していく予定です。

平成15年度の予定は以下に示しました。ぜひおおくの人の参加を望みます。今年は将来の水環境調査のお役に立つような、そのスペシャルストとしての感性を養う有意義な一日を過ごす計画をたてております。

今年度の日程

第1回、4月20日（日）

第2回、6月1日（日）

第3回、7月21日（祭）

第4回、9月14日（日）

第5回、10月12日（日）夜、成虫採集あり

集合場所：JR 太井松田駅、9時

酒匂川水系探水隊 連絡所：

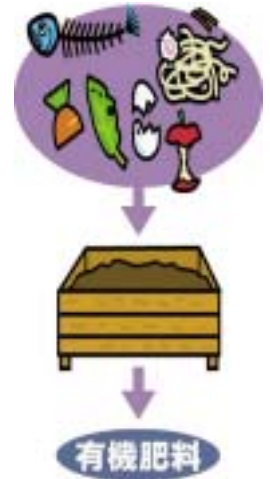
相模原市磯部 1346 - 10 齋藤 昭一

TEL/FAX 046-256-5988

Eメール saito2s@par.odn.ne.jp

生ゴミリサイクルで 家庭から出るごみを減らそう

7期 原園 信夫



家庭から出るごみの中で、一番リサイクルしにくいものとして、「生ごみ」があげられます。

平成 14 年から、食品を扱うレストランや、スーパーなどにも「食品リサイクル法」が制定され、リサイクルが義務付けられました。

私たちの家庭から出るごみの、容積率で 6 割だった容器包装は「容器リサイクル法」で大きく減量がなされつつあります。しかし、容積率ではわずか 1 割でも、重量では 5 割、しかも 80~90%が水分である生ごみは、ほとんど燃えるごみで、処理されています。

「生ごみをリサイクルしたい」という人は、たくさんいるようです。しかし「臭いがいや」「虫がわく」など、一度やっても挫折する人も多いようです。

生ごみは、一番信頼できる肥料（自分の口に入れる食材の残り）であることを考えれば、それを使っ

て、野菜を作る、花を咲かせるなど身近なところで使ってみたいものです。

生ごみの処理は大きく分けて 3 通りがあります。自分のやりやすい方法で処理をし、ほとんど水を焼却設備に持ち込まないことを心がけてはいかがでしょうか。

自分でできるところから取り組みましょう。

「注意事項」

生ごみを処理する場合、電動乾燥機を除いて、水分を 50%くらいにする必要があります。

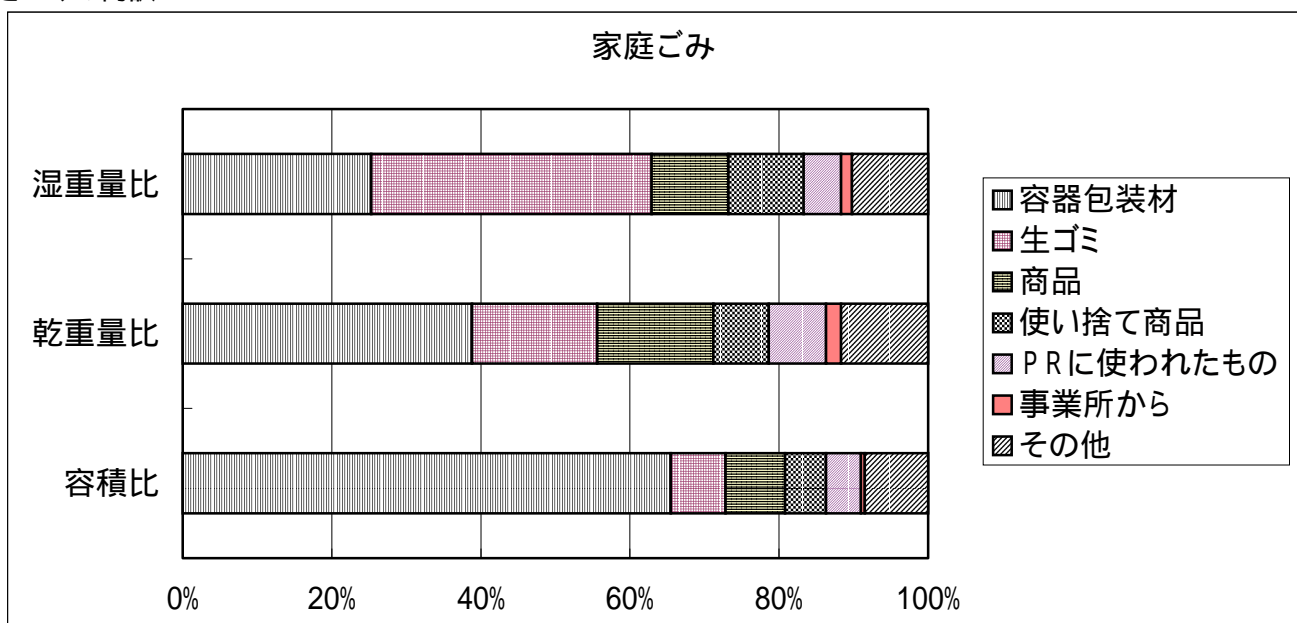
このくらいの湿りが、微生物が一番活躍する水分量です。

1 日、水きり網に入れて干すと、このくらいになります。

処理の仕方

| 処理の仕方 | 出来たもの | 二次処理 | |
|-------------------------|--------------------|------|-------------------------|
| 好気性発酵による方法 腐葉土、堆肥を使う | 生ゴミ堆肥 | 不要 | 時間がかかる 2~3ヶ月 |
| 嫌気性発酵による方法 密閉容器 | EMぼかしを使う 生ゴミ処理物 | 必要 | 処理をこまめにしないと強烈なおい。2次醗酵必要 |
| 電動式生ゴミ処理機を使う 乾燥方式 | 生ゴミ肥料 | 不要 | 電気代がかかる 簡単に肥料化できる |
| 微生物分解方式 | 未熟性ゴミ堆肥 | 必要 | 量がかさばる |

家庭ごみの内訳



近頃思うこと

3期 天谷 芳夫

地元の横浜、日吉に松の川緑道という遊歩道があって、週に一回手入れのボランティアに参加している。“都会の中に田舎道を”を合言葉に、雑草（野草）を生やし、虫を増やし、これを求めて小鳥を呼び殖やすというユニークな狙いがある。そのシンボルとして、大空を仰ぐ鳥の彫刻のモニュメントが建つ「鳥の広場」があり、辺りは雑草の繁った原っぱとなっている。隣りに続いて公園が広がり、一帯はちょっと高台となっていて、とても落ち着いた雰囲気である。早朝の犬の散歩や朝の体操から・・・夏の盆おどりの人出まで、様々な場面が見られる。月に一回か二回はここ「鳥の広場」の辺りの手入れに回ってくる。

手入れの作業が始まるのは10時頃からで、丁度この時間の頃になると、幼い子どもを連れた若いお母さん達が、三々五々公園のお砂場の辺りに集まって来る。ベビーカーに乗せたり、お歩きやお手引きしたり、ダッコしたり、親も子供も楽しそうにやって来る。幼児はお砂場が人気。ブランコ、広いところを駆けまわったり、思い思いに遊び始める。一方お母さん達は、子供に目くばりしながらのおしゃべりの輪で花を咲かせている。とてもどかで微笑ましい。

このように仲間に加わってゆくことに「公園デビュー」の呼び名がはやったことがあったが、よくも名づけたものと思う。子供にとっても、親にとってものことである。

開けた空、申分のない日当り、車の心配はなく人通りも稀で、遊べる原っぱもある。子供も親も遊びにおしゃべりに、安心して切ってもらえる至福のひと時の情景が繰りひろげられる。冬でも日だまりに集まり、夏には繁った藤棚の木陰にと、春夏秋冬天気がよければ年間を通して絶えることがない。

緑道の作業にひと汗流したあとの「鳥の広場」

でのお茶のひと時に、まわりの自然の風情とあわせて、見ているこちらも和やかに、幸せな気分させられる。

ひと昔も二昔もずーっと以前の現役時代、わが家の子育ての頃は高度成長の真只中、早出残業当たり前で仕事に没頭していたものだ。朝早く一旦入社してから外出した時など、たまたま通りかかった団地の広場でのおしゃべりの輪、傍らで子供達の遊びといった光景を横目に見て、優雅な身分などとチラリと思ったりしたものだ。リタイヤして時間持ちの身となった今、子育て最中の一部始終を見ていると、優雅どころかとてもとてももの奮闘の連続なのだ。こどもの面倒、家族の朝食、勤めの送り出し、幼稚園への送り、後かたづけ、掃除、お洗濯・・・。公園へのお出かけの優雅に見えるのは、その後のホッとするひと時であることを、今更ながら実感をもって受け止めている。優雅に見えた、このゆったりと安心し切った時間というものが、幼児にとって、その時期にしか得ることのできない、実は最も大切なものであることをつくづくと思うこの頃である。

こどもの詩

安心を経験したこどもは

信頼というものをおぼえる

可愛がられ抱きしめられたこどもは

世の中のありとあらゆる

愛情を感じとることをおぼえる

(スエーデンの中学校の教科書にあるそうだ)

思いっきりの安心は、どんなに与えても与えすぎることはないだろう。「鳥の広場」も公園も毎年変わることはないが、新しい「公園デビュー」と、そこからの巣立ちが毎年繰り返されている。



日頃の環境活動を通して（環境教育）

6期 高橋 利榮

横須賀市では市内小中学校の総合学習のなかに環境問題を取り入れていくことになり市民ボランティアとして「環境教育指導者」を登録し市内の

小中学校へ派遣する制度に取り組んでいます。

私たち市内で環境活動をしている仲間が日頃の活動を通して（環境学習リーダー・環境カウンセ

ラ等)環境教育をどのように実践できるのか未知数でありますボランティアとして市の環境部に登録をしました。

私をはじめに市から依頼されましたのは平成14年12月市内のO小学校五年生3クラス120名を対象にしてテーマは「大気汚染と地球温暖化について」でした。テーマとしては非常に難しく子供達にどのように分かりやすくお話を進めていくのか、いろいろな資料を参考にしながら何度も何度も原稿を作り直しどうにかお話する内容の大筋をまとめることが出来ました。

当日は用意してきたOHPを使用しながらの授業でしたが、自分では納得していても子供達の反応が伝わってこない雰囲気であり、頭を切り替えて途中から子供達と会話をする形を取り入れていきました。少しずつですが、子供達の雰囲気が和らいで来るのが分かるようになってきましたが、あっという間の40分授業でした。

授業の最後には自分達で学校周辺の空気の汚れを調べてみたいとの質問がありましたので後日先生を通して測定管をくばり測定をしていただきました。測定の結果は総合学習の環境の授業においてマップを作成し生徒全員で勉強をしていただきました。

二回目は平成15年2月市内のT小学校五年生2クラス70名を対象にテーマは「地球温暖化を中心とした環境問題」でした。前回と同じように子供達にどのように理解していただけるのか前の資

料を参考にしながらまとめてみました。

子供達はなんとなく私語が多くざわついた雰囲気なかで、前回の反省をふまえOHPを使用しながらの説明を少なくし自分と一緒に考えたり質問をしたりしての授業でしたが、なかなか理解してもらえないようでした。

授業の最後には子供達に市で配付している環境家計簿を人数分用意し家族で協力して家計簿を作成し市のほうに送るようお願いし授業を終わりました。

二回のボランティア授業をとおして、資料の整理も大切ですがいかに子供達と楽しく授業が出来るのか一つでも理解してもらえるのか、教える難しさと楽しさを実感させられました。

授業の後は非常に疲労感がありましたが子供達の「ありがとうございました」の挨拶と笑顔が今も心に残っています。

2月末には私たちの仲間とボランティア授業を行った学校の生徒、先生と平作川中流部から上流部にかけて、水質調査、自然度調査を行い昼食をはさんでの楽しい一日交流を深めました。ボランティア授業の出来る日を楽しみにしているこのごろです。

環境学習リーダーとして何も活動してこなかった私がこのような投稿をするのは恥ずかしいのですが、今後の環境教育の取り組みの参考になればとの思いで投稿をさせていただきました。

掲示板

既発行の会報を配架

当会の会報の第1号から最新号までを下記場所に配架し、誰でもいつでも読めるようにしましたので、ご利用ください。

配架場所：かながわ県民センター11階

「ボランティア情報・相談コーナー」の
“会報コーナー”

ファイル名：神奈川県環境学習リーダー会

(広報部)



編集後記

「親子で考える環境展」「市民環境活動報告会」「意見交換会」と大きな事業が続きました。環境展では部会・グループの日頃の活動や提言を一目でわかるように工夫し、報告会では、学習したことを踏まえて地域で実践しているさまざまな活動事例が紹介されました。交換会ではいろいろな立場から貴重な提言もありました。これからの運営に生かされて行くことと思います。

交換会の席上、清水代表が「表にでることの少ない活動も大切」といわれたのは、活動を支える大元は陰の力があってこそだと考えられるからでしょう。同感です。

1・2部の構成で編集しましたが、これも活動の活性化の表れです。4月26日の総会でお会いしましょう。

広報部長 森 千春

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2003年3月30日